

全林研会長賞

島根県

## 大田市林友会

所在地 &gt; 島根県大田市

設立 &gt; 昭和40年9月

会員 &gt; 男35人

年齢 &gt; 55歳～80歳 平均68歳

### 主なプロジェクト

- ◆ ヨロイマツの管理と遺伝子保存
- ◆ 「森林教室」出前講座

## ☒ 「ヨロイマツ」遺伝子保存に夢を ☒

### 1. 地域の概況

大田市は、島根県の東西の中央部に位置し、面積436.12km<sup>2</sup>、人口は3万7,429人(H26.4.1)で、市の中央部には、平成19年7月2日に日本では14番目、鉱山・産業遺跡としては初の世界遺産に登録された石見銀山遺跡、南東部には大山隠岐国立公園に属する三瓶山があります。

主な産業は、農業、林業、畜産業、漁業、瓦産業等が盛んで、歴史と文化、豊かな自然に恵まれた人が輝く誰もが住み良い県央の中核都市です。

### 2. 大田市の森林資源

大田市の林野面積は3万3,706ha、約80%が森林です。うち民有林面積は3万2,129ha、34%が人工林で伐採可能時期を迎えている9齢級以上のスギ、ヒノキ、アカマツ林が51%を占めています。

特にアカマツ林が、県内の他の地域に比べて多いのが特徴です。

### 3. 大田市林友会の概要

大田市林友会は昭和40年に設立され、現在の会員は男性のみの35名です。

かつて多い時は100名ほどの会員を有していました。

年齢構成は、55歳から78歳で平均年齢は67歳という状況で、実際に活動できる人数はごく限られています。

そのような中で、一貫して熱い思いで「ヨロイマツ（鎧松）」の遺伝子保存を中心に活動に取り組んでいます。

#### 4. 主な活動内容

##### (1)「ヨロイマツ」の管理と養成

「ヨロイマツ」とは、アカマツ、クロマツの混種で独特の特徴を持った大田市内のみで見られる、極めて貴重なマツです。

平成5年に民有林で、偶然3本相次いで確認され、その内1本は数年前にマツクイ虫被害に遭い、現在はわずか2本しか残っていません。2本とも樹齢約70年で姿の美しい立派なマツです。

第1の特徴は、樹皮の下側が反り返り、鎧のような外観が見られ、ヨロイの呼称が使われているのはその樹皮の外観によるものとされます。



ヨロイマツ

第2の特徴は、製材すると、板目の面に美しい複雑な杓目が現れます。

##### ①天然「ヨロイマツ」の管理

現在残っている2本の天然ヨロイマツを大田市の財産として、是が非でも後世に残すために管理を行っています。

管理を行うにあたり、山主の許可を得て、マツクイ虫被害対策として薬剤注入、感染源除去のためにヨロイマツ周辺の枯損木の除去を適時行っています。

##### ②「ヨロイマツ」の養成

○接ぎ木による養成

ヨロイマツの遺伝子を残すために、接ぎ木による増殖を以前から積極的に

試みています。

かつては、先輩会員の技術指導により、盛んに接ぎ木の講習を大田市森林組合の圃場で行っており、市内のあちこちに植栽するとともに、個人で購入したいという希望者には販売もしていました。

しかし、近年は残念なことに技術を持った会員の高齢化により技術の伝承が途切れがちになってしまい、接ぎ木作業はほとんど失敗に終わっていました。

そこで、数年前から島根県緑化センターで接ぎ木の実技指導を受講し、少しでも活着率を上げようと個々の会員が努力しています。

#### ○植栽したヨロイマツの養成

大田市内の数カ所に、かつて成功した接ぎ木苗を植栽しており、そのうち2カ所は、世界遺産センターの敷地内（石見銀山世界遺産センター）と国立公園内の施設（三瓶こもれびの広場）に植えています。

それらの施設には、県内外から多くの人々が訪れ、それゆえPR効果も高いことから、特にこの2カ所については、毎年、年2回の下草刈りをはじめ積極的に周囲とヨロイマツの整備を行っており、標柱と説明板も設置しています。

箇所	植栽年度	本数
石見銀山世界遺産センター敷地内	平成12年	32
三瓶こもれびの広場	平成11年	30

## (2) 次世代に向けた取り組み

### ① 森林教室の出前講座（森と木の体験教室）

ヨロイマツについての広報、宣伝活動に併せ、林友会の新しい活動として昨年度から、大田市内の小中学校等で森林教室を開催し、次世代を担う子どもたちに森林活動を通して森林の大切さを知ってもらい、ヨロイマツが大田市地方だけで発見されているという貴重さとその保存の必要性についても説明しています。

子どもたちは、私たちの話や模型・道具を誰もが新鮮な驚きを持って見たり聞いたりしてくれました。そしてその感想を絵と文章でつぶってくれました。

## ● 森林教室 昨年度実績

学校名	活動概要
大田市山村留学センター 三瓶こだま学園	模型による流水実験、間伐、炭焼き、薪割り、 巣箱作り
大田市立高山小学校	学校林整備（歩道整備、草刈り、竹林整備、 巣箱作り）

### ② 福祉施設等のイベントへの参加

多くの市民にヨロイマツの存在と保存を知っていただくために、市内の福祉施設等のイベントに積極的に参加し活動しています。

会場を訪れた子どもたちと連れの保護者も大いに関心を示してもらい、イベントでの活動の有効性を大いに感じています。

### (3) その他の取り組み

- ケヤキの増産と調査
- ショウロの生産
- 抵抗性マツの台木確保
- 研修会の開催
- 先進地調査

## 5. 課題と将来への夢

### (1) 課題

- 接ぎ木の活着率の向上
- 林友会員の高齢化
- 実働部隊の減少と固定化

### (2) 将来への夢

#### ①ヨロイマツのことを人々に認識してもらう

私たちは今、大田市内にしか現存していない貴重なヨロイマツを認知してもらうために事あるごとにいろいろな手法で知らせようと頑張っています。もっと多くの人にヨロイマツを認知してもらうことで、ヨロイマツが何らかの指定を受けてほしいと思っています。

### ②ヨロイマツを植えて使ってもらう

我々が、接ぎ木技術の向上を図り、多くの苗木を育てて、市内の公共施設の場所や、個人所有の山に植栽してもらい、将来きれいな空目のヨロイマツの用材をどんどん使っていただき、特有の空目の美しさを楽しんでもらいたいと思っています。

### ③次世代を担う多くの子どもたちに森林の大切さを知ってもらう

森林の果たす役割は、環境、エネルギー、防災、他産業への影響が計り知れません。木材価格が下落し、林業が低迷している中で、森林の果たす役割を再認識してもらう手立てを講じなければならないと思います。

次世代のため、子どもたちを中心に、大いに森林の大切さを働きかけなければならないと様々な活動を通しその思いを強くしました。林友会にはその役割の一端があると思えてなりません。

我々大田市林友会は、今後もヨロイマツを通して現在と将来を繋げる活動を続けていこうと思っています。

